2023 年度国際ユース作文コンテスト
【若者の部】　優秀賞

平和な世界がここに

（原文は英語）

フェイソラ・マリア・ボラリンワ（17 歳）
ナイジェリア
ジョス大学

混乱、戦闘、そして暴力による殺人。それは、私が住むコミュニティでの長年にわたる紛争の経験でした。銃撃、ナタでの切り付け合い、血の海。それらは日常の光景でした。裸足で何キロも走った私の足は弱々しくよろめき、舌は口の中でカラカラに干上がっていました。私は体全体が恐怖に包まれていました。生きて明日を迎えられるかどうか、全く分かりませんでした。絶え間なく続く抗争によって、多くの子どもたちが孤児となり、その多くが、生まれて初めて目を開くか開かないかの内に殺されてしまうような状況でした。

協議や調停が何度も行われましたが、実を結ぶことはありませんでした。そこである日、私は目を覚ますと、平和を築き暴力を終わらせるために貢献しようと固く決意しました。私は、対立する 2 つのコミュニティがお互いに平和と愛のメッセージを伝え合えるよう、土着の「手段」を使うことにしました。あらゆる土着の民話や伝承の中から、平和、愛、慈悲、許し、お互いへの思いやりについての歌を集めました。また、土着のことわざや詠唱をもとに歌も作りました。

若造だとあしらわれて聞く耳をもってもらえないのではと思いましたが、私は父に、長老方に聞いてほしい平和のメッセージがあると伝えました。父は、私が言わなければならないと感じていたことに耳を傾けてくれ、これを推し進めるべきだと言ってくれました。次の協議の日、私は歌や寓話、伝承の中の平和のメッセージを携えて目的地へと向かいました。私のパフォーマンスの後、メッセージは長老方の心に深く染み入りました。歌の 1 つは、彼らが自分たちや同胞たちに行ってきたことについて反省するよう促すものでした。彼らは野蛮な行為によらない人道的な解決方法について真剣に考えることができたのです。

対立する両者が顔を合わせる次の協議の日、私はそこに参加するよう要請されました。「戦争のためではなく平和のためにやってきたのだ」と話を切り出した時、私は緊張しました。そして、彼らに対し、「平和にチャンスを与えてほしい」と訴えました。幸い、彼らは渋々ながらも私に賛同してくれました。彼らは私の歌や民話を全て録音しました。私は自分なりのささやかな方法で、彼らの心を平和へと向けさせることができたのです。もう一度、全ての歌や民話を聞かせてほしいと言われ、私は応じました。彼らは、私が紛争地に平和をもたらす覚悟を決めていることを見て喜んでいましたが、皆、罪悪感を強く抱いている様子でした。私の目標は、持続可能な平和を構築することでした。私はとても幸せ

な気持ちで家に帰りました。私のコミュニティの長老方が私を訪ねてきた時、私はほとんど休んでいませんでしたが、彼らは、私の話を聞きたがりました。私は、彼らに一度聞かせた話の内容を更新したり、それらに新しい情報を追加したりしました。彼らは大喜びし、チラシや記録の作成のための費用を出してくれることになり、私は実行に移しました。翌日、私の歌や朗読が TV とラジオで放送されました。

私はこの結果に勇気づけられ、さらにプログラムに演劇などを取り入れました。これらを全部一人で行うことはできなかったため、私の信念に興味を持った若者たち全員に関わってもらいました。私は自分たちが影響を与えることができたことに気づいたので、自分のコミュニティと争っていたもう一方のコミュニティに出向いて、さらにそこの若者たちをグループに誘いました。私たちは、歌、舞踊などのパフォーマンスに全て平和のメッセージを込めました。私たちは、紛争中の二つのコミュニティだけでなく、他のコミュニティの村の広場でもパフォーマンスを行いました。私たちのパフォーマンスとプログラムは、大きな成果を挙げました。紛争中だったコミュニティが、平和を受け入れることに同意したのです。両者は、平和に共存を続けています。平和な世界とは、愛、思いやり、許し、そして協調しながら生きることです。私たち若者は、平和のメッセージを広めるために団結することによって、今日の世界に平和を構築することができます。これはどこでも実現可能です。私には平和に関する強いメッセージを込めた忘れられないパフォーマンスがたくさんあります。私が始めたように、若者たちは集えば、自分たちの創造性や革新性を使って、人々の心や家庭、国、そして全世界に影響を及ぼす紛争の主な原因の解決策を見つけることができるのです。私たちにチャンスを与えてもらえませんか。